

2019年2月28日

鹿児島大学病院 脳神経外科 で
てんかんの手術を受けた患者さんへ
(医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院脳神経外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

てんかん外科手術後の社会的転帰に関する要因の検討

【研究機関】

鹿児島大学病院 脳神経センター 脳神経外科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 脳神経センター 脳神経外科
准教授 花谷亮典

【研究の目的】

難治性てんかんの外科手術の対象となる患者さんは、てんかんにより生じる様々な影響から、就学や就労への支障を伴うことも多くみられます。てんかんの外科治療では、発作自体の抑制はもちろんのこと、症状の改善を通して社会への適応を促すことも大きな目標となります。てんかんの外科治療は脳機能へ直接影響を及ぼす手術であり、術後には脳機能に何らかの欠落症状を来す可能性もありますが、これまでに我々は小児てんかんにおいて、社会に出る前に発

作を抑制することがその後の社会適応を促すことを報告してきました。てんかん焦点の同定のために、術前に臨床症状・生理検査・画像検査・機能検査・神経心理検査・感情評価などを行っていますが、これらに術前の生活状況や手術部位を加えて総合的に評価することで、術後の発作転帰に加えて、社会適応についても一定の予測ができるのではないかと考えられます。

本研究を通して、術前評価や外科手術による改善度予測を元に、術後の社会的状況の予測ができれば、患者さんやご家族が術後の生活を設計する上で有用ではないかと考えます。また、逆の見方をすれば、どのような患者さんが術後に社会適応できるかを確認することで、外科治療によって社会適応を目指すことができる患者像を明確にすることができます。

【研究の方法】

後方視的に術前検査項目、社会的状況、および発作の転帰と社会的転機との関連性を確認し、術前状態から見た社会適応が可能な群を確認します。さらに、術前術後で改善した項目と、術後の社会適応との関連を評価し、外科治療により社会適応を可能としうる群を検討します。そして、術後に社会適応する上で最も重要な要因を抽出します。

本研究は藤元総合病院との共同研究を行います。

【対象となる患者さん】

2007年1月1日から2027年2月28日までに、鹿児島大学病院脳神経外科で、てんかんの治療のために手術を受けられた患者さんまたは藤元総合病院脳神経外科で迷走神経椎激装置設置術を受けた患者さんを対象にしています。

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

診断病名、てんかんの焦点診断のため・術後経過の評価のために行った検査、術中写真を含めた手術記録、症状の経過などを参照させていただきます。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する情報は、当院並びに藤元総合病院の診療情報から、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報削除したものを
用います。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、公的研究費（学術研究助成基金助成金）並びに、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科脳神経外科学分野の研究費（使途特定寄附金）で実施します。この研究は、研究者が独自に計画し、実施します。企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科

准教授 花谷亮典

電話 099-275-5375 FAX 099-265-4041